



自然観察

No. 79
2006
6月

目 次

・ 新会長に後藤言行さんが就任 まず、一步を踏み出してみませんか	2
・ 2006年度総会終わる 2005年度決算報告書及び監査報告	3
・ 2006年度事業計画	4
・ 2006年度予算	5
・ 2006年度・2007年度 理事・監事名簿	6
・ 北海道自然観察協議会会則	6
・ 2005年度観察会実施報告	7
・ 2006年度講演会講演要約	8
・ 会計からのお願い	9
・ フィールドニュース 恵庭市	10
・ 参加者の声	10
・ ウォッチングレポート	11
・ 第17回滝野の自然に親しむ集いのお知らせ	12
・ ウォッチングプラン	13
・ 理事会だより	14
・ 事務局だより	14
緊急連絡先他	14



朱鞠内湖道立自然公園 (幌加内町)

新会長に後藤言行さんが就任

2006年4月15日の北海道自然観察協議会総会において
会長 福地郁子さんが退任され、
新会長に後藤言行さんが就任されました。
副会長に横山武彦さんと木村マサ子さん、
事務局長に須田節さんが選任されました。



まず、一步を踏み出してみませんか

会長 後藤 言行

「自然保護でメシが食えるのか」と凄まれたことがありました。「草や虫よりも人間の生活のほうを大事にしてほしいんだよ」といわれたこともありました。

何十年が経って、自然保護とまでは行かなくとも「自然」そのもので「メシが食える」時代にはなりました。しかし、大方の構造は「自然を食いつぶして（エサにして）生業を立たせている」類で、その点では「開発」の名の下に自然破壊を繰り返してきた政治と大して変わらないのではないのでしょうか。

私たちの実施している自然観察会の活動は、自然保護思想の底辺を支えるボランティア活動であると私は思っています。

ボランティア活動にもいろいろなものがあります。身近な人たちへの介護に取り組んだり、発展途上国と呼ばれる国の僻遠地に学校を建てようとか、地球上から地雷を廃絶させようという運動のように時には命を懸けなければならないようなものから、イラクのストリートチルドレンの救済のように、賞賛されるどころか（誰のさしがねかは言いませんが）猛烈なバッシングを受けるような活動まで多種多様です。

その中で私たちのおこなっている「自然観察ボランティア」は、どちらかといえば手軽で、一般の人に対しても分かりやすい活動であるといえます。きわめて高度な技術を必要とするわけでもありませんし、死の危険に隣り合わせることも、一つのミスが取り返しのつかない重大な結果を招くことも、普通では考えにくいものです。

それならばもっと気軽に、身近な所での観察会が開けないものでしょうか。でも「観察会を主催する」となると、どうしても構えてしまうことは否定できません。「この植物の名前を聞かれたらどうしよう」「野鳥は得意でないし、コンチュウはさっぱり分からないし・・・」

「生物の名前は知らないより知っているほうが

いいに決まっている」という意見があります。確かに一定の知識がないと（自信がないと）「観察会を主催する」という発想自体が湧いてこないことは理解します。でも「半端な知識こそが行動を制限しているのだ」という見解もあるのです。何も知らなくていい。何も説明できなくともいい。参加者の皆さん自身に、その自然を満喫してもらえばいいのではないのでしょうか。

ここは「発想の転換」というよりもむしろ「原点に立ち返る」ことが必要ではないかと思えます。

私たちのボランティア活動の目的は、自分自身の自然を尊び・学ぶ姿勢で多くの人に働きかけ、自然への興味・関心を持ってもらい、最終的には自然保護の立場に立ってもらうことだと思えます。ですから「知識」に不安があっても「だからできない」ではなくて、ボランティア活動の原点に立ち戻ってまず一步を踏み出してみませんか。でも、一人では確かに心許ない。ですからわれわれ協議会の組織があり、協力し合う保障が必要になってくるのだと思えます。

私たちの会は、かつては「北海道自然観察指導員連絡協議会」という名称でした。6年前に名称を変更したときの論議でも「指導員として『指導』しなければならぬ、というのはキツイ」というのがあったと記憶しています。

名簿をもとに近くの人と声をかけあって、あるいは事務局・理事会を始め、全道の会員に協力を要請しながら最初の一步を踏み出してみませんか。

最後に「言わずもがな」でしようが、会則の第2条・会の目的を改めて読んでみたいと思えます。

『自然をとうとび、自然に学ぶ我々は、自然観察会活動をとおして多くの人々と自然について語り、自然に親しみながら、自然と調和する方法を探究し、このかけがえのない自然をよりよい姿で子孫に残そうとするものである』

2 0 0 6 年 度 総 会 終 わ る

2006年度北海道自然観察協議会総会は4月15日(土)に札幌市環境プラザ研修室で開催されました。総会では新年度の事業計画・予算の決定、会則の一部改正、改選期に当たる理事・監事の選出が行われました。引き続き講演会が行われました。講師は北海道大学大学院地球環境科学研究院助教授工藤岳氏、演題は「森林性植物の季節性と繁殖特性」でした。
年度末で確定した決算報告・監査報告、新年度の事業計画、改正された会則を掲載します。

2005年度決算報告及び監査報告

2005年度決算報告書

収入の部

単位(円)

項 目	予 算 額	決 算 額	増(+)/減(-)	摘 要
前年度繰越金	1,166,027	1,166,027	0	
会費	500,000	583,000	+83,000	会員440名
研修(補助)	30,000	30,000	0	北海道自然保護協会より
雑収入	0	100,033	+100,033	寄付金(富士ゼロック端数倶楽部・富士ゼロック勝より合計10万円)
観察会参加料	100,000	96,681	-3,319	観察会保険料・資料代
合 計	1,796,027	1,975,741	+179,714	

支出の部

単位(円)

項 目	予 算 額	決 算 額	増(+)/減(-)	摘 要
事務費				
通信費	50,000	50,095	+95	切手、ハガキ、電話代、送金手数料
消耗品費	30,000	19,101	-10,899	プリンターインク、用紙、コピー代など
会議費	15,000	17,450	+2,450	理事会、部会、救急救命講習会
小 計	95,000	86,646	-8,354	
会報費				
会報郵送費	200,000	173,730	-26,270	年間4号分(加ネメール便) 75、76、77、78号
印刷代	150,000	133,884	-16,116	年間4号分 75、76、77、78号
ラベル代	4,000	4,200	+200	
封筒印刷代	36,000	12,705	-23,295	
原稿謝礼代	0	0	0	
通信費	10,000	14,520	+4,520	編集部関係
消耗品費	10,000	248	-9,752	セロテープ、プリンターインク、用紙など
会場費	0	1,000	+1,000	会報発送で使用
小 計	410,000	340,287	-69,713	
活動費				
観察会費	100,000	50,382	-49,618	観察会実費(保険料、北へ材料代、郵送料・払込手数料等)
総会開催費	16,000	14,074	-1,926	講師謝礼、会場借用料
30周年積立	30,000	30,000	0	
全道研修費	50,000	0	-50,000	全道研修会無し
地方研修費	50,000	22,850	-27,150	補助(身近な昆虫へのアプローチ)
旅費補助	0	0	0	指導員養成講習会2005年度は無し
備品費	30,000	28,350	-1,650	ルーペ
雑費	10,000	6,230	-3,770	「日本の森と自然を守る全国連絡会」会費など
小 計	286,000	151,886	-134,114	
予備費	1,005,027	0	-1,005,027	
総 計	1,796,027	578,819	-1,217,208	

収支残高

総収入 1,975,741円 - 総支出 578,819円 1,396,922円(2006年度へ繰越)

30周年特別会計

2004年度繰越金 30,000円
2005年度積立金 30,000円
60,000円

観察会参加料決算報告

収入		支出	
繰越	0	保険料(900名)	32,400
観察会参加料金53回	95,300	資料・北へ代	10,422
雑収入	1,381	振込手数料(23件)	1,590
		通信費	3,440
		講師謝礼	0
		材料代	0
		交通費	2,120
		雑費	410
収入合計	96,681	支出合計	50,382

収支残高 96,681-50,382 = 46,299 (円)

2006年4月15日

以上の通り決算報告いたします。

金 計 引地 輝代子

金 計 中村 真由美

2006年4月15日

上記に関する監査を実施し、適正であることを認めます。

監 事 伊達 佐重

監 事 横山 武彦

2006年度事業計画

1. 観察会の開催について

- 1) 今年度の観察会実施計画は別表「2006年度自然観察会の予定(指導員用)」の通りです。
(観察会日程のほか下見会、研修会などの情報も掲載しました)
 - ・今回掲載以外にも企画があれば観察部山形へご連絡下さい。
 - ・今年度より一般参加者名簿および指導員名簿の記載内容が変わり新しい名簿用紙になりますので、各観察会連絡担当者の方は必要枚数を観察部山形までご連絡ください。

- 2) 観察会の報告書は観察部山形(札幌市中央区 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp)へ、保険料など現金は観察部会計引地(札幌市北区)へ送付ください。
 - ・振り込みを利用する方は、会計引地へ申し出て下さい。印字済み振込用紙をお渡しします。振込の場合は、振込用紙に記載されている内容を必ず記入して下さい。

口座番号：2770-9-34461 (通常払込加入者負担の用紙)

加入者名：北海道自然観察協議会観察保険料

- ・手渡しの場合は、会計報告書に記入し現金と一緒にお渡し下さい。
- 3) 観察会の予定及び実施状況は、会報でお知らせします。
 - 4) 各観察会で作成・使用した資料を収集しています。会員が閲覧利用できる仕組みを検討中です。観察会報告書に同封するなどご協力下さい。
 - 5) 観察会の下見会を、会員同士の交流と研修の場として活用して下さい。
 - 6) 団体などから当会へ「観察会へ指導員派遣」の要請があれば、事務局が窓口となり対応します。
 - 7) 「第17回 滝野の自然に親しむ集い」は、7月29日(土)～30日(日)。滝野実行委員会(委員長・事務局・編集部・観察部・研修部各1名選出)で組織して実施予定です。
 - 8) 共催で協議会の保険を使う場合は、参加者名簿とひとりあたり50円の保険料を協議会へ送って下さい。ただし、一泊二日以上

は該当しません。

< 観察会事故緊急連絡 >

事務局へ連絡をお願いします。

Tel/Fax 011-752-7217

日曜・祝祭日 (株)北海道保険---休日

保険会社：北海道保険保証 (Tel 011-222-0877)
死亡保険：500万円
入院保険金額：5,000円 (180日以内) 日額
通院保険金額：2,500円 (90日以内) 日額

2. 指導員研修について

< 全道研修会 >

「石狩浜」NACS-J 海岸植物群落調査・研修会 (NACS-Jとの共催)

6月24日(土) 13:00～25日(日) 12:00
石狩浜を会場に、海岸植物群落の特徴・保護活動を学び、NACS-Jが全国で実施している海岸植物群落の調査方法について実習する。

< 地方研修会 >

1) キノコ研修会

「キノコという生物をもっとよく知ろう」
(仮題)

10月1日(日) 9:00～12:00

錦大沼総合公園 オートリゾートキャンプ場

2) フォローアップ研修会

「はじめの一步を一緒に」

11月19日(日) 9:00～16:00

恵庭市 青少年研修センター

3. 会報発行について

会報79号 6月15日、会報80号 9月1日

会報81号 11月15日、会報82号 '07年3月15日

事務局ほか各部などの最終締め切りは発行日の25日前とします。

同封書類については事前に打ち合わせの上、当日、発送作業の場へ持参して、作業の手伝いをお願いいたします。

4. その他

- ・各地域の実情を把握して、会員が活動しやすい体制を作りたい。
- ・協議会ホームページの立ち上げを図りたい。
- ・'07年1月28日、責任ある観察指導員としての確かな判断と対応が取れるように救急救命講習会を実施します。

- ・個人情報保護の観点から、会員名簿は外部に流出しないようにして下さい。
- ・'07年10月27日(金)～29日(日)、2006年度指導員講習会開催予定。日本自然保護協会、北海道自然保護協会、北海道自然観察協議会共催。

保有する個人データは適正に取り扱い、第三者には提供することはありません。

< 観察会カードについて >

20周年記念事業の一つとして作成した「観察会カード」を配布中です。希望の方は事務局へ連絡をお願いします。」

< 個人情報保護法について >

「北海道自然観察協議会」では個人情報保護法の対象団体ではありませんが、保護法を尊重し、入手しました個人情報は、観察会活動の目的以外には利用いたしません。

観察会用物品(クリップボードは観察会連絡先指導員へ配布を検討)、北海道自然観察協議会蔵書、分野別ガイドについては、会報78号p5、p6をご覧ください。

2006年度予算

2006年度予算

収入の部				単位(円)	
項	目	決算額	予算額	増(+)/減(-)	摘要
前年度繰越金		1,166,027	1,396,922	+230,895	
会費		583,000	540,000	-43,000	会員400名、新指導員入会40名として
研修(補助)		30,000	0	-30,000	
雑収入		100,033	0	-100,033	寄付・助成金など
観察会参加料		96,681	90,000	-6,681	観察会保険料・資料代
合	計	1,975,741	2,026,922	+51,181	

支出の部				単位(円)	
項	目	決算額	予算額	増(+)/減(-)	摘要
事務費	通信費	50,095	60,000	+9,905	
	消耗品費	19,101	30,000	+10,899	プリンターインク、用紙、コピー代など
	会議費	17,450	15,000	-2,450	理事会、部会
	小計	86,646	105,000	+18,354	
会報費	会報郵送費	173,730	200,000	+26,270	年間4号分(加封メール便)
	印刷代	133,884	150,000	+16,116	年間4号分(1冊約70円)
	ラベル代	4,200	4,000	-200	
	封筒印刷代	12,705	36,000	+23,295	2000通印刷予定
	原稿謝礼代	0	0	0	
	通信費	14,520	15,000	+480	編集部関係
	消耗品費	248	10,000	+9,752	セロテープ、プリンターインク、用紙など
	会場費	1,000	0	-1,000	
	小計	340,287	415,000	+74,713	
活動費	観察会費	50,382	90,000	+39,618	観察会実費(保険料、北...材料代、郵送料・払込手数料等)
	総会開催費	14,074	16,000	+1,926	講師謝礼、会場借用料
	30周年積立	30,000	200,000	170,000	
	全道研修費	0	50,000	+50,000	補助
	地方研修費	22,850	50,000	+27,150	補助(25,000円×2回)
	旅費補助	0	23,000	+23,000	指導員養成講習会へ(2004年度15,000円+手伝い延べ6人)
	救急救命講習会費	-	8,000	+8,000	事務費から活動費へ項目設ける
	用具費	28,350	30,000	+1,650	備品費を項目変更
	雑費	6,230	10,000	+3,770	「日本の森と自然を守る全国連絡会」会費など
	小計	151,886	477,000	+325,114	
予備費		0	1,029,922	+1,029,922	
総	計	578,819	2,026,922	+1,448,103	

2005年度収支残高

総収入 2,026,922円 - 総支出 2,026,922円 = 0円

30周年特別会計

2005年度繰越金 60,000円
2006年度積立金 200,000円
260,000円

2006年度・2007年度 北海道自然観察協議会 理事・監事名簿

氏名	住所	職務	氏名	住所	職務	氏名	住所	職務
八木 健三	札幌市南区	名誉会長	伊東 勲	旭川市大町	理事	安田 秀子	石狩市花川	理事
後藤 言行	小樽市緑	理事 会長	岩隈 隆夫	札幌市南区	理事	荻田 雄輔	札幌市中央区	監事
木村マサ子	函館市住吉町	理事 副会長	遠藤 哲則	北見市留辺蘂町	理事	伊達 佐重	夕張郡栗山町	監事
横山 武彦	江別市大麻	理事 副会長	大表 章二	磯谷郡蘭越町	理事			
須田 節	札幌市東区	理事 事務局長	北本 毅	岩見沢市東山町	理事	皇山 俊雄	札幌市厚別区	顧問
山本 牧	旭川市東光	理事 総務	久野 裕之	札幌市中央区	理事	松野 誠也	札幌市南区	顧問
山形 誠一	札幌市中央区	理事 観察部長	佐藤 祐一	札幌市清田区	理事	富川 徹	江別市文教台	顧問
竹林 正昭	北見市端野町	理事 編集部長	高橋 英和	札幌市東区	理事	大友 健	札幌市厚別区	顧問
北山 政人	札幌市西区	理事 滝野	豊澤 勝弘	苫小牧市日新町	理事	佐々木太一	上川郡当麻町	顧問
畑中 嘉輔	札幌市豊平区	理事 事務局会計	中川 晃	千歳市文京	理事	福地 郁子	札幌市南区	顧問
遠山 あづさ	江別市文教台	理事 事務局	新潟 幸一	白老郡白老町	理事			
富田 智恵	恵庭市柏木町	理事 事務局	根岸 徹	札幌市厚別区	理事	事務局		
有田 智彦	苫前郡羽幌町	理事	宮本 健市	千歳市白樺	理事	引地輝代子	札幌市北区	観察会計
池田 政明	札幌市北区	理事	松本 昇	名寄市東4条	理事			

北海道自然観察協議会会則

第 1 条 名 称

この会は北海道自然観察協議会と称する。

第 2 条 目 的

自然をとうとび、自然に学ぶ我々は、自然観察会活動をとおして多くの人々と自然について語り、自然に親しみながら、自然と調和する方法を探求し、このかけがえのない自然をより良い姿で子孫に残そうとするものである。

第 3 条 事 業

この会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 自然観察会等の育成指導。
2. 会員の資質の向上を図るための研修会等の開催。
3. 会員の親睦と団結を図り、地域の自然保護思想を啓発するための大会を開催する。
4. 会員相互の連絡と情報交換、研究資料等の発表のための会報を発行する。
5. その他、この会の目的達成のための事業並びに事業協力。

第 4 条 会 員

この会の会員は（財）日本自然保護協会が認定した自然観察指導員をもって構成する。

第 5 条 役 員

この会に、次の役員をおき、それぞれの職務を担当する。

1. 会長 1名 会を代表する。
2. 副会長 若干名 会長を補佐し、会長事故ある時は会長職務を代理する。
3. 事務局長 1名 会の事務一般を総括する。また、事務局員若干名を指名する。
4. 理事 30名以内 会の運営について審議する。
5. 監事 2名 会の運営及び会計を監査する。
6. 役員の任期は2年とする。再任は妨げない。

第 6 条 役員選出

役員（理事、監事）は総会において選出し、会長・副会長・事務局長は理事の互選とする。

第 7 条 会 議

1. この会の会議は、総会及び理事会とし、会長が招集する。会議の議長は理事の互選とする。
2. 総会は、毎年1回開催し、会の運営及び事業の執行等全般について決定する。
3. 理事会は必要に応じて開催し、事業の執行等について審議する。

第 8 条 会 計

1. この会の経費は、会費・寄付金・その他の収入による。
2. この会の会費は、年額1,500円とする。
3. 会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

第 9 条 付 則

この会の会則は、1984年（昭和59年）8月26日から施行する。

一部改正 1991年8月11日、1994年5月21日、2000年4月15日、2006年4月15日

2005年度観察会実施状況報告

2005年度観察会開催予定55回のうち、滝野の集いおよび雨天中止2開催と報告書不備3開催を除く
49開催について報告書がまとまりましたのでお知らせいたします。 (観察部)

グラフ1 過去5年間の年代別参加者数 (表1参照)

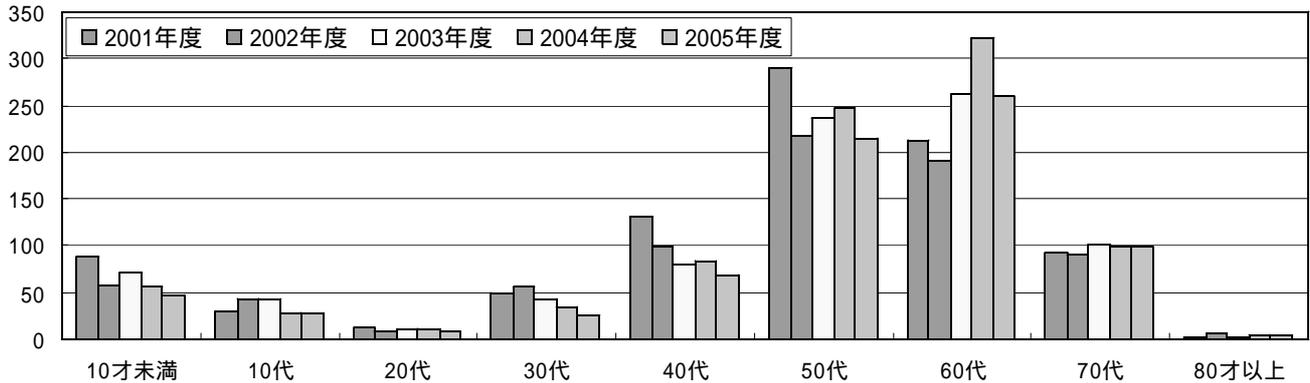


表1 01～05年度年代別参加者数

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
10才未満	88	58	70	55	47
10代	31	43	42	28	27
20代	12	9	10	10	9
30代	49	56	43	35	26
40代	131	98	79	84	69
50代	289	216	236	247	215
60代	213	191	262	322	260
70代	92	90	100	98	99
80才以上	2	6	2	5	5
計	907	767	844	884	757

表2 05年度年代別性別分析

年代	人数	%
10才未満男	17	3.0
10才未満女	22	3.9
10代男	10	1.8
10代女	17	3.0
20代男	4	0.7
20代女	4	0.7
30代男	10	1.8
30代女	15	2.7
40代男	19	3.4
40代女	35	6.3
50代男	36	6.4
50代女	105	18.8
60代男	78	13.9
60代女	119	21.3
70代男	32	5.7
70代女	35	6.2
80才以上男	1	0.1
80才以上女	1	0.1
計	560	99.8

表3 05年度参加者男女の割合

男	246	37.5%
女	410	62.5%
計	656	100%

表4 一般参加者数と平均年齢および参加指導員数

開催年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
開催回数 (回)	38	47	45	48	54
一般参加者 (人)	1036	1036	991	1035	957
平均年齢 (才)	49.4	49.0	49.0	52.5	49.0
指導員 (人)	308	351	311	290	277

- 1) 2005年度観察会は(滝野の集いを除き)54開催が予定され、雨による2開催の中止を除き無事終了しました。その他報告書不備の3開催を除く49開催について集計しました。会報78号の中間報告でも触れましたが、05年度は年度初めに、個人情報保護法に関連して一般参加者名簿の記載が一部簡略化されました。変更については各観察会ごとに口頭による参加者への説明とし、名簿用紙も従来のものをそのまま使用したため、特に年齢記載に多くの不備が出ました。
- 2) 今年度は表ごとに集計人数が違ってきます。
 - ・表1の05年度参加者計757名は、表4の05年度参加者数957名から年齢未記載者200名を引いた人数です。
 - ・表2の560名は、参加者総数957名から複数回参加者を1回にカウントしなおし(677)、さらに年齢未記載者(117)を引いたものです。
 - ・表3の656名は、参加者総数957名から複数回参加者を1回にカウントしなおし(677)、さらに性別の判定できない者(21)を引いたものです。
- 3) 集計結果については、例年とほぼ同じ結果となっています。グラフからも分かるとおり50代・60代が突出し、全体の6割を占めています。私たちの観察会は、この層に支えられているといえるでしょう。
- 4) 全ての年代を通して女性の参加が多くなっています。
- 5) 30代・40代の減少傾向が見受けられます。
- 1) 今年度は各観察会連絡担当の皆さんに迷惑をおかけしましたが、06年度からは、一般参加者用、指導員用ともに記載内容の変更に合わせて名簿用紙が変わります。年度末集計の正確を期すためにも新しい名簿用紙の使用をお願いします。

「北方系生態系の季節性と気候変動の影響

- 森林生態系と高山生態系は温暖化によりどのような影響を受けるか。」

4月15日(土)総会後の講演会の内容を要約しました。工藤先生に目を通していただいております。文末に、講演内容に関して先生の書かれたものが記載されている書籍で、私の手元にあるものをあげました。

(横山 武彦 記)

講師 工藤 ^{がく} 岳 氏プロフィール:

1962年東京生まれ。

1991年北海道大学大学院環境科学研究科博士課程修了。

日本学術振興会特別研究員、科学技術特別研究員、

北海道大学大学院地球環境科学研究科を経て、

現在、北海道大学大学院地球環境科学研究科助教授。

主な著書:

「大雪山のお花畑が語ること?高山植物と雪渓の生態学」

京都大学学術出版会(2000年)

「高山植物の自然史?お花畑の生態学」 北海道大学図書刊行会(2000年)



はじめに

研究活動のフィールドにしている大雪山系五色が原のお花畑の規模が小さくなったのは地球温暖化によるものか、という問いかけから、「生態学」からみた「地球温暖化」を、森林性植物と高山性植物の生物間相互作用・生物種多様性・生物季節(フェノロジー)などから考えてみる。

なお、生物間相互作用には相利的関係と敵対的關係があること、生物種多様性については一般に環境傾度が存在することにより多様な生物群集が維持され種の多様性や遺伝的多様性も保たれること、生物の生活の季節的スケジュールである生物季節の温暖化による現われの例として開花や開葉の早期化や紅葉の遅れなどがある。

また、地球環境性変化として平均気温の上昇や降水量・降水パターンの変化、異常気象の規模や頻度の変化などがあるが、これらはそれぞれの生物の生理的特性や生物季節、生育分布(森林限界の上昇、動物でいえばマリアアの高緯度への分布拡大など)に影響を与える。これらは生物間の相互作用により、さらなる分布域の変化、ひいては生物の種の絶滅につながる事が予想される。

森林性植物の季節性と繁殖特性

1、光環境の季節変化と植物の結果(果実をつけること)の関係

植物の結果する割合は受粉に必要な花粉の供給、生殖器官の成熟のための資源(光や栄養など)の供給に負う。春咲き植物、初夏咲き植物、夏咲き

植物について各条件と温暖化による影響について考えてみる。

A 春咲き植物(フクジュソウ、エゾエンゴサク、エンレイソウなど)は、雪解けにより開花時期の年変動は大きい結果率が一般に大きい。フクジュソウは受粉をハエが媒介するので安定して高く、エゾエンゴサクはマルハナバチが媒介するので変動が大きい。エンレイソウは自殖能力が大きいので安定している。

B 初夏咲き植物(ズダヤクシュ、マイヅルソウ、オオアマドコロ、コンロンソウなど)の結果率は1割以下である。昆虫により花粉媒介されるが、林冠の樹木が開葉するため林床では光環境が低下し、急速な資源不足が生じることによる。

C 夏咲き植物(エゾタツナミソウ、ウマノミツバ、ミミコウモリ、ハエドクソウなど)は開花時期の年変動は少ないが、昆虫により花粉の媒介が行われ結果率の変動が大きい。

2、春植物の地球温暖化による影響

春植物にも種により季節性や繁殖特性が異なるので、いくつかの種について地球温暖化の影響について考えてみる。

・フクジュソウ

花粉はハエにより媒介される。向日性があり花弁でつくるバラボラを太陽に向けて集熱するので、開花時期が変動しても安定した種子生産を行うため、気候変動を受けにくい。この花粉媒介に関わるハモグリバエには、成虫は花が生活の場であり、

幼虫は茎を食べるがフクジュソウへの影響はわずかである。

・ヒメイチゲ

ハエが花粉媒介。気温が上昇し雪解けが早くなっても種子生産性は高い。

・エンレイソウ

自殖性の植物であり、気温が高いほど、雪解けが早いほど開花も早まるが種子生産への影響は小さい。

・エゾエンゴサク

地中で越冬し、雪解け時期が出芽時期や開花時期に大きな影響を与える。開花時期と花粉を媒介するマルハナバチが越冬から目覚める時期がずれると受粉できないことになり種子生産が低下する。気温や積雪・融雪の状況の微妙なバランスがこの植物の繁殖を支えている。地球温暖化による影響を受けることも予想される。

以上の例に示すとおり、森林の春植物は温暖化により開花時期が早まると考えられるが、繁殖への影響は種により様々である。ただ、マルハナバチと春植物との共生関係は微妙な危うさがあり、温暖化により崩壊するものもあるのではないかと予想される。

高山生態系の成り立ちと雪の関係

1、高山生態系の一般的特徴と植物の季節性

高山の生態系は、厳しい気候条件や地理的環境により低地帯とは異なった環境のもとに置かれる。低温、強風、貧栄養土壌、強い紫外線、短い生育期間などの環境である。

高山には、風衝地群落、ハイマツ群落、雪田植物群落、高茎草本群落がみられる。風衝地では、冬は地下凍結し、積雪は少なく、雪解けが早いいため生育期間が長いが風が強く、ミネヤナギのように花や芽に柔毛を密生しているものなど耐寒性の植物が見られる。

雪田の植物は雪が解けるとすぐ生育開花するが耐寒性は低い。雪解け傾度が大きいほど開花パタ

ーンが多様化しており、昆虫にはよい環境である。ミヤマキンバイは、風衝地・雪田ともにみられるが、両環境では花粉交換がされないため遺伝的交流も行われていない。形態も異なり、異なった形質をもったものに進化したと考えられ、それぞれの場所で遺伝的多様性が維持されている。

エゾコザクラは雪田植物の代表的なものである。雪田の中でも雪解けの時期の違いにより開花時期に差がある個体間では遺伝的交流はない。

2、高山生態系への温暖化の影響

温暖化により雪解けパターンの変化（一般には早期の雪解け）が生じると、生育可能期間や温度、土壌水分などの環境変化が生じ、群落構成種が変化する。雨竜沼や大雪山五色が原まではチシマザサの侵入が増えてきている。このことから弱い種の衰退と絶滅、種多様性が減少することとなる。

気候的制約の観点からみると開花開始時期が早まるなどの生物季節の変化が生じるが、凍害の危険性も大きくなると予想される。また、花粉媒介昆虫との関係からみると、開花が早くなってもこれらの昆虫の活性が低いことから花粉制限が生じ種子生産も低下する。

これらから、種間の競合関係の変化と種組成の変化、生物季節の変化と種間相互作用の改変・衰退が生じると考えられる。

温暖化による環境の変化が、生物が過去に経験したことの無い速さで起こるとき、生物の適応進化が追いつかず、種の絶滅や生物の種多様性の急激な低下が予想される。

参考図書：・「植物の生活史 春の植物1」

・「植物の生活史 春の植物2」

・「花の自然史 美しさの進化学」

(いずれも北海道大学図書刊行会出版)

工藤先生の研究内容や論文などは次のホームページを参照していただくとよいとおもいます。

<http://hosho.ees.hokudai.ac.jp/~gaku/index-j.html>

会計からのお願い

会費の納入はお早めに

会費は年度単位です。2006年度の会費をお早めにお願いたします。

- ・ 通信欄は住所変更等の近況報告にお使い下さい。
- ・ 差し支えなければメールアドレスを記入願います。

退会のお申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。

届が出されるまで会費のお支払いをしていただきます。

郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会

会計 畑中 嘉輔



不思議空間「恵庭公園」

恵庭市 高橋 美智子

「恵庭公園」は総面積およそ42haの総合公園。その25%はスポーツ施設、残り75%の自然公園区域がミズナラやカツラを中心に40数種の樹木が構成する二次林です。その周囲は住宅街や牧場、畑地、防衛施設用地や教育施設等が隣接していますが、林内には推定樹齢500年といわれるミズナラの高木や市内を流れる「ユカンボシ川」の源流が現存する希少な自然が残っています。

ここで私は20数年野鳥を観察記録し、様々な自然の姿を垣間見てきました。ここは私の不思議の国、穏やかな時の流れを残した大切な場所です。そして今、ここで地元の人たち対象の自然観察会の案内人として、その時々自然探しを楽しんでいます。

春の頃はお花見。フクジュソウやヒメイチゲ、エゾエンゴサクやエンレイソウが織りなすお花畑へ案内します。その後は参加者個人の時間。花を愛でたりマルハナバチの様子に見入ったり、林内から聞こえるキビタキやクロツグミの声に耳を傾

けたりと、それぞれが自分の世界に浸るのですが、そんな時は不思議と、まるで人の気配がそこにないかのようにオオルリやキビタキが姿を現し、メジロやコムクドリが営巣や子育ての様子を間近に見せたりします。

雨の日はマイマイの仲間の交尾（交接というらしい）を目撃するチャンスもあります。広い林の中でやっと出会った、たった2匹のカタツムリ。雨に打たれながら互いの首を絡ませて、休むことなく触覚を幾度も出し入れしながら続ける繁殖の営みを目撃したならば、きっとあなたも厳粛な気持ちになれるでしょう。

秋は紅葉や落ち葉を楽しみます。枯葉の中に手を入れて葉っぱめくりを楽しむ時は、葉っぱの大事な役割に気づいてくれるといいな、そんな願いも込めてます。

雪の頃は雪の上の生き物探し。雪面を歩く黒い小さなヒジキのような虫が繁殖シーズンを迎えたトビムシやクロカワゲラの仲間と知っただけでも感激です。

不思議空間「恵庭公園」へ出かけてみませんか。

参加者の声

小樽市 旭展望台 (06/4/29)

札幌市中央区 生田 京子

例年に無い寒さが続いた4月の末、久しぶりの晴天に恵まれて早春の小樽の小高い丘を、新鮮な空気を吸いながら、日常の喧騒から解放されたひと時を過ごすことが出来てとても気持ちよかったです。

海も青くおだやかで、その向こうに望めた樺戸連山の白い嶺々のコントラストが美しかった。樹々の若葉が芽吹く前に一番に地面から顔を出す「カタクリ」を求めて約一時間、道端の新芽をのぞき、案内して下さった方の説明を受け山の中の植物の生命力に驚いたり、小さな八コベの白い花にこの時期だからいとおしさを感じ、いつも見慣れているのに知らなかった草や樹の名前を教わったりと充実した散策でした。

まだ残雪が多く斜面のカタクリの花には会えませんでしたでしたが、けなげに顔をもたげているカタクリの蕾にいつれ一面に咲き誇るであろう景色を想像しつつ現地を後にしました。

旭展望台からの小樽市内の眺めもステキでした。

札幌市 藻岩山 (06/5/13)

札幌市南区 堀田 蓉子

私は、藻岩山観察会には過去2回参加していますが、今日は、好天にめぐまれて、又、山裾では、モズ、オオルリ、ウグイス等の小鳥も良く見えました。ヒトリシズカをじっくり観察して、黄色の下の、とっくりのようなグリーン色の透明のが雌しべだと教わりました。

オオバボダイジュは、7月に花が咲くと聞きましたので見にこようと思っています。

その他、30種以上の花、木の説明を聞きまして、自然は素晴らしいと思いました。今日は本当に有難うございました。



ヒトリシズカ 北見 M.T.

苫小牧区 錦大沼総合公園 06年 4月23日

参加者30名 指導員 5名 晴 道新、朝日、苫小牧民報
<錦大沼の源流を見る>

「錦大沼の源流を見る」としたテーマで開催した当会は、晴天に恵まれ、心地よい一日を過ごした。源流付近に産卵のため集まるワカサギを目玉としたが、水温が低いいためか、一匹も見ることができず、一同残念であった。それでも展望台から眺める樽前山、フクジュソウの群落などを観察。

今回、昨年より要望の多かった開催時間延長に応え、14時までの時間帯で開催したが、昼食時の参加者との雑談は有意義で、また、ゆっくり・のんびりとした観察時間を持てたのは良かったと思う。

(佐々木 昌治 記)

札幌市中央区 道庁 植物園 06年 4月29日

参加者87名 指導員17名 晴
<園内の早春の足音>

四月に入っても気温の低い日が続き、こんなに寒くて花は咲いているのだろうかと心配しましたが、キバナノアマナ、エゾエンゴサク、アズマイチゲなど、ほぼ例年並みに咲いていてまずは安心。

この春一番の好天にも恵まれ、参加者も多く、春の花の季節を待ちわびた気持ちが伝わってきました。

指導員の皆さんも、下見からたくさんの方が参加してくれて、和やかな雰囲気の中、無事観察会を終えることが出来ました。

(山形 誠一 記)

札幌市中央区 円山公園 06年 5月 7日

参加者30名 指導員 6名 快晴
<春に咲く植物>

ゴールデンウィーク最終日。この春一番の汗ばむほどの陽気と、抜けるような青空。

春の円山観察会は、絶好の日和に恵まれました。

4月の低温で遅れていた、エゾヤマザクラも待ちかねたように咲き出し、観察会に色を添えてくれました。

あることは知られていても、実際何処にあるかはあまり知られていない、標準木のソメイヨシノを見にいったり、スミレサイシンを見ながら、スミレの見分け方を説明したり...

気がつけば30分ほど時間もオーバー。

充実の2時間半でした。

(山形 誠一記)

札幌市南区 藻岩山 06年 5月13日

参加者12名 指導員 2名 晴 朝日、ティガル、ウォッチングガイド
<フクジュソウ、春渡ってくる鳥たち>

お天気に恵まれ、渡ってきた鳥も多く見られた。オオルリ、キビタキ、モズ、ヤブサメ、ウグイスなど。

ヒトリシズカがちょうど見ごろで、参加者は大喜びをして観察。フクジュソウは終わりに近づいていたが、まだ花をつけ、群落の様子が参加者には感動を与えたようだ。その他、キベリタテハ、クジャクチョウ、シータテハなどと並び外来種のオオモンシロチョウも早々と飛んでおり、外来生物の話も盛り上がった。

(福地 郁子 記)

札幌市手稲区 手稲市民の森 06年 5月14日

参加者 3名 指導員 4名 雨/晴 読売
<春植物を探そう>

昨年に引き続き雨の中の観察会になりました。参加者は数名でしたが、春植物を間近に見られて"きれい、かわいい"など感激され、途中鳥の鳴き声も多く聞かれて十分に自然を感じ取られた様子でした。

咲いている草花は、ヒトリシズカ、エゾエンゴサク、シラネアオイなどで、樹木ではイタヤカエデ、ハウチワカエデ、オオカメノキ、ヤマザクラなどです。

これからは、ツクバネソウ、マイズルソウなどが咲くようです。

来年は3年連続雨とならなように願っております。

(高田 敏文 記)

千歳市 支笏湖外輪紋別岳 06年 5月20日

参加者21名 指導員 7名 道新、朝日、苫小牧民報、千歳民報、広報
<春の花>

一週間ぐらい前から雨天の予報が続き、前日になり晴れの予報に変わりました。告知の活動は充分していたつもりでしたが、そのタイミングとかが、天気予報の関係や近くの行事などの関係もあったのか、参加者は例年より随分少なく、21名でした。風もなく、晴れて暖かく、良い天気でした。指導員7名で、安全対策や参加者の身近でその二にズに応え、しかも指導員の出番も考えて、4班としました。雪は例年通りで頂上まで登ることができました。

まず、ふもとでエゾハルゼミの合唱があり、

オオバキスミレ、沢山のシラネアオイやファイリミヤマスミレなど、遠景の木々の芽吹き、淡褐や黄緑のもこもこのながめ、夏鳥のさえずりの中を登って行きました。頂上近くではコヨウラクツツジが満開でした。ある班では、めったに見られないヤブサメを2m ぐらいの近さで見ることができました。

特に問題も無く、参加者や指導員も共に満足している様子でした。

(谷口 勇五郎 記)

石狩市厚田区、濃昼山道、'06年、5月20日

参加者26名 指導員7名 晴

<濃い昼山道を歩いてみよう>

これまで使用されていなかった部分を、濃昼山道保存会の方たちの6年間に及ぶササ刈りの努力の結果、昨年10月開通した山道です。この日は、その一部(濃昼～峠より下の旧道分岐点)を歩きました。

麓には、ニリンソウがたくさん見られ、上につれてオクエゾサイシン、キクザキイチゲ、オオタチツボスミレ、エンレイソウが道の両側に次々と姿を現しました。湿り気が多い傾斜地では、リョウメンシダ、コタニワタリ、オシダなどのシダ類が見られました。やがて、オオサクラソウの群落が広がると参加者から歓声が上がりました。

高所に到り、海と、色とりどりの樹木が広がる山の風景を堪能した後下山しました。

(林 迪子 記)

札幌市北区、篠路五ノ戸の森緑地、'06年、5月21日

参加者23名 指導員12名 快晴 読売

<春の花と鳥を見よう>

受付を済ませて、まずスコープでアオサギの巣の様子を見てもらいました。年毎に増えて今年は60以上の巣でヒナが孵っています。青空に映える繁殖時のきれいな親鳥の姿や、ポヤポヤ頭の小さなヒナ、親と同じくらいの大きさになっているヒナの姿に歓声が上がりました。

オオバナノエンレイソウ、シラネアオイ、ニリンソウなどの花を見ながら、オニグルミ、ヤマグワ、イチイなど木の花にも注目しました。雄花がまず咲き、雌花の開花とずれていることや、雌雄異株の木の花のちがいなどをじっくり観察しました。林の中のグランドカバーとなっているツルマサキが、よじ登る木が見つかるとう絡みつきのながら成長し、太い木になっていく様子をあちこちで見比べながら回りました。

天気もよく、指導員の参加も多かったので3グループそれぞれできめの細かい観察会が出来ました。

(横山 加奈子 記)

『第17回 滝野の自然に親しむ集い』のお知らせ

例年、好評の『滝野の集い』の日程が下記のように決まりました。
子供たちやその家族とともに自然のなかで楽しくすごしませんか。
経験や自信がなくてもみんなで助け合います。
多くの指導員の方々のご参加・ご協力をお願いいたします。

日	程：7月29日(土)～30日(日)
場	所：滝野自然学園とその周辺
内	容：せせらぎウォッチング、野外炊飯、 ナイトウォーキング、自然ハイキング他
下	見：6月17日(土)・・・自然学園周辺 7月 2日(日)・・・自然ハイキングコース下見 7月23日(日)・・・最終打合せ
集	合場所：いずれも地下鉄自衛隊前駅の裏口 9:00集合 そこから車に便乗して現地に向かいます。
担	当：畑中 嘉輔 Tel/Fax 011-581-5439



2006年度 観 察 会 ('06年6月18日~9月17日)

下見の日は連絡先指導員に確認してください。

年月日	テーマ	観 察 地	集 合 場 所・時 刻	交 通 機 関	下 見	連 絡 先
6月18日(日)	もっと藻岩山 藻岩山散策(旭山記念公園~慈恵会)	札幌市中央区~南区 藻岩山	旭山記念公園駐車場 10:00集合~14:00慈恵会駐車場解散 昼食持参	地下鉄東西線 円山公園バスターミナル発, JRバス「旭山記念公園」行き		山形 誠一 011-551-5481
7月2日(日)	「カリンバの森」観察会 カリンバの森で、悠久の歴史と夏の草花の観察	恵庭市 カリンバの森	JR恵庭駅東口前 10:00集合~12:00解散	JR快速千歳空街行き「恵庭」駅下車 恵庭病院東側に無料市民駐車場有	6月24日(日)	小林 英世 0123-36-3944 富田 智恵 0123-34-4778
7月9日(日)	「平岡公園」観察会 はらっぱに造った湿原の変わる様子を観察する	札幌市清田区 平岡公園	平岡公園第一駐車場(厚別中央通沿い) 10:30集合~13:30解散 昼食持参	地下鉄東西線 大谷地駅発中央バス「大66」ジャスコ平岡店行・平岡5条3丁目下車(前方左の緑地歩道を200m, 徒歩5分)	7月9日(日)	佐藤 佑一 011-881-5336
7月16日(日)	「精進川」観察会 川で遊ぼう(親子・子供持参)	札幌市豊平区 精進川河畔	豊中公園 9:30集合~12:00解散 川に入るための古い縄漕舟を用意してください	地下鉄南北線中の島駅下車徒歩5分	7月9日(日)	澤田 久美子 011-891-1962
7月23日(日)	「オタモイ海岸」観察会 海浜植物(パンシクルモンなど)	小樽市 オタモイ海岸	中央バス「オタモイ団地」バス停 9:00集合~12:00解散	小樽駅前国際ホテル向いから中央バス「オタモイ入口」行き乗車, 「オタモイ団地」下車		本間 正一 0134-23-9374
7月23日(日)	「夏の円山公園」観察会 円山登山	札幌市中央区 円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 1階バス待合所 9:00集合~12:00解散	地下鉄東西線円山公園駅下車		山形 誠一 011-551-5481
7月29日(土)~30日(日)	「第17回」滝野の自然に親しむ集い 親子1泊2日観察会 夏休み野外学習(親子・子供持参)	札幌市南区 滝野自然学園	申し込み方法, 申し込み締切など詳細は未定 決まり次第, 新聞, 広報誌などでお知らせします 問い合わせは「連絡先」の指導員まで	地下鉄真駒内線より中央バス「滝野公園」行き「アソビベンの滝」下車徒歩3分 下見日程は「第17回」滝野の自然に親しむ集い」のお知らせをご覧ください		畑中 嘉助 011-891-0556
8月6日(日)	「盛夏の錦大沼」観察会 深緑の中の森林浴	苫小牧市 錦大沼総合公園	錦大沼総合公園駐車場 8:50集合・9:00~14:00解散 昼食持参 雨天原則決行・強風中止	自家用車のみ あわび双鏡・ルーベ・区鑑など持参	8月5日(日) 9:00~	佐々木 昌治 0144-67-2022
8月6日(日)	「夏のカタクリの森」観察会 2種のツリフネソウ	北見市 たんのカタクリの森	北見市端野図書館前 9:45集合~12:00解散 共催 端野カタクリの森の会	北見バスターミナル 9:20発「美幌車別線」乗車 「屯田の杜公園」下車		竹林 正昭 0157-56-3357
8月20日(日)	「夏の手稲山」観察会 ゆったり山歩	札幌市手稲区 手稲山ロープウェイ山麓駅~山頂	「ロープウェイ」山麓駅前 10:00集合~15:30解散 雨天中止 昼食, 飲料水, 軍手, 虫除けスプレー持参, 要登山靴	JR手稲駅南口発JRバス 手稲山ロープウェイ線 「ロープウェイ」バス停下車	8月19日(土) 9:00~	高田 敏文 011-684-0889
9月2日(土)	「秋の紋別岳」観察会 秋の花	千歳市 支笏湖外輪紋別岳(864m)	中央バス支笏湖湖畔バス停前 9:40集合~15:30解散予定 支笏湖観光ホテル入浴料実費負担(500円) 登山靴不要 昼食持参	JR札幌駅7:52発「千歳行き」8:21千歳駅着 千歳駅前中央バス8:50発「支笏湖畔行き」支笏湖畔下車有無料駐車場有	8月26日(土)	佐藤 信一 0123-48-3503 今野 善行 0123-23-5672
9月10日(日)	「平岡公園」観察会 はらっぱに造った湿原の変わる様子を観察する	札幌市清田区 平岡公園	平岡公園第一駐車場(厚別中央通沿い) 10:30集合~13:30解散 昼食持参	地下鉄東西線 大谷地駅発中央バス「大66」ジャスコ平岡店行・平岡5条3丁目下車(前方左の緑地歩道を200m, 徒歩5分)	9月10日(日) 9:00~	佐藤 佑一 011-881-5336
9月10日(日)	「手話で楽しむ」観察会 すばらしい自然の残る青葉公園で、聴覚障害者と一緒に「手話による観察会」をします。手話に興味のある方大歓迎	千歳市 青葉公園	千歳市立図書館駐車場 9:30集合~12:30解散 必要に応じて昼食持参	JR千歳駅前, 千歳バス9:22発「青葉公園」行 「青葉公園」下車 駐車場有	9月2日(土)	川北美由紀(fax) 0123-24-5946 中川 晃 0123-28-8927
9月16日(土)	「野幌森林公園(大沢口)」観察会 (親子・子供持参) 森に秋を探しに行こう	江別市 野幌森林公園 大沢口	野幌森林公園大沢口駐車場 10:00集合~12:00解散	JRバス新札幌駅発 循環バス83番, JR森林公園駅 徒歩8分国道12号線開拓の村入口バス停 循環バス, 「文教台南町」下車, 徒歩10分	9月9日(土) 10:00~	横山 武彦 011-387-4960
9月17日(日)	もっともっと藻岩山 藻岩山散策(旭山記念公園~慈恵会)	札幌市中央区~南区 藻岩山	旭山記念公園駐車場 10:00集合~14:00慈恵会駐車場解散 昼食持参	地下鉄東西線 円山公園バスターミナル発, JRバス「旭山記念公園」行き		山形 誠一 011-551-5481

研修会

年月日	テーマ	観 察 地	集 合 場 所・宿 泊 場 所	交 通 機 関	講 師	連 絡 先
全道研修会 6月24日(土)~25日(日)	NACS-J 海岸植物群落 調査研修会	・はまなすの丘公園 ・石狩海浜保護センター ・石狩海浜草原 ・カシワ海岸林 協力: 石狩市石狩海浜植物センター	石狩温泉「番屋の湯」研修室 Tel 0133-62-5333 24日13:00集合~25日12:00 解散 宿泊: 石狩温泉「番屋の湯」	札幌中央バスターミナル(大通り東1) 11:30発「石狩」行き, 「石狩温泉前」下車 約60分 札幌駅より乗車の方は創成川沿い「北西1」 帰: 石狩発13:00	千葉県立中央博物館 由良 浩さん 石狩海浜植物保護センター 内藤華子さん	与那覇モト子 0133-74-7952

案内と申込用紙は、会報78号に同封済みです。

【事務局だより】

会員の躍進の願いを背負って、2006年度事業が軌道にのって動き出しています。

6月2日の理事会において、観察協議会のホームページの立ち上げが決まりました。

会の紹介・観察会予定・観察会報告・会報などが掲載内容です。

詳細は次回理事会で検討されます。決定次第URL等をお知らせいたします。観察会報告や各地域の活躍の様子などを写真などと一緒にお知らせいただければ、より充実したものになると思います。ご協力をお願いいたします。



【理事会だより】 理事会議事録から抜粋

4/15 '05 第6回 拡大理事会（新旧理事）

- ・事務所を保護協会内にとすると、郵便物などを取りに行く事務局の負担が大きいことから、会則第1条の事務所について討議がなされた。
- ・各地域事業の予算組み入れの提案がされた。
救急救命講習会の会場費など、事務局に連絡をお願いしたい。
- ・ホームページについては、観察協議会独自のホームページの必要性が確認されました。
- ・30周年特別会計積立金増額について提案がありました。
総会で2006年度積立金に限り20万円とすることが決定されました。

6/2 '06 第1回

- ・総会反省としては、理事選考年次には総会の時間を長くした方がよい。
- ・2006年度・2007年度 理事・監事と職務については別紙を参考にしてください。
- ・第17回滝野に親しむ集い7月29日～7月30日（実行委員会 5/20）
- ・会員全員にどの部（編集部・研修部・観察部）でご協力いただけるのか、アンケートを取る
ことになりました。力を貸してください。
- ・会則が現状と合わないので、次回から会則改正の検討に入る。

会費や寄付は	----->	郵便振替口座	02710-1-8768	北海道自然観察協議会
		会 計	畑中 嘉輔	〒062-0033 札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13 /Fax 011-581-5439
観察会保険料は	----->	郵便振替口座	2770-9-34461	北海道自然観察協議会観察会保険料
		観察会担当会計	引地 輝代子	〒002-8022 札幌市北区篠路2条5丁目8-25 /Fax 011-773-2170
観察会報告書・資料は	----->	観 察 部	山形 誠一	〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp
研修会関係は	----->	研 修 部		
退会、住所変更の連絡他は	----->	事 務 局	須田 節	〒007-0846 札幌市東区北40条東9丁目1-13 /Fax 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.com
事故発生等緊急時は				北海道保険保証 011-222-0877（日・祝祭日は休み）
投稿や原稿は	----->	編 集 部	竹林 正昭	〒099-2103 北見市端野町3区378-3 /Fax 0157-56-3357 E-mail hzx01204@nifty.com

表紙スケッチ 八木健三



自然観察:2006年 6月 15日 / 第79号 年4回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)
発 行 北海道自然観察協議会
編 集 北海道自然観察協議会編集部